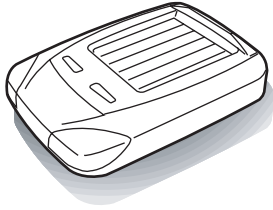


この度はベストワンシリーズレーダー探知機をお買い求めいただきまして誠にありがとうございます。本書には取付け及び操作手順が説明されており、正しくご使用いただく為に本書をよくお読みのうえ、ご使用ください。尚、読み終えた後、いつでも見られるよう大切に保管してください。



・ご使用上の注意	ページ 2
・おもな特長	5
・各部の名称	6
・ご使用にあたって	8
・使用初期の充電	10
・レーダー受信機の取付け方法	11
・各スイッチの設定方法	12
・本機の受信方法	16
・機能用語の説明	18
・レーダーまめ知識	19
・故障かな?と思ったら	21
・仕様	22

警告

- 本製品を分解、改造しないでください。火災、感電、故障の原因となります。
- 運転中は、本製品を絶対に操作しないでください。わき見運転は、事故の原因となります。
- 本製品は、運転や視界の妨げにならない場所に取付けてください。又、自動車の機能（エアバック等）の妨げにならない場所に取付けてください。事故や怪我の原因となります。
- 本製品が万一破損・故障した場合は、すぐに使用を中止して販売店へ点検・修理を依頼してください。そのまま使用すると火災・感電・車の故障の原因となります。
- 本製品を水につけたり、水をかけたりしないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 本製品を医療機器の近くで使用しないでください。電波により医療機器に影響を与える恐れがあります。

ご使用上の注意

3

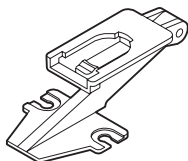
おもな特長

- ソーラーレーダーの常識を超えたわずか64mm×86.5mmのコンパクトボディにカーロケーターシステム（407MHz帯）の受信機能を搭載。
- リフレクターレンズの採用により後方受信性能が140%アップ/当社比
- D.S.C（デジタル・スイープ・コントロール）回路搭載により安定した受信
- ステルス・新Hシステム対応
- 高容量電池・オートボリュームダウン・LSC-V機能採用により、従来のソーラーレーダーより消費電流を抑えた省エネ設計
- 万一、バッテリー不足になっても、シガープラグ（12V）から電源供給できる安心設計
- フロントガラス又は、ダッシュボード上に取付け可能なジョイントステーを付属

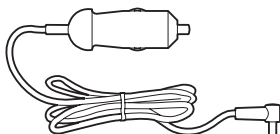
おもな特長

5

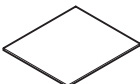
付属品



ジョイントステー（1個）



12V専用シガープラグ（1個）



両面テープ（1枚）



吸盤（2個）

各部の名称

7

ご使用上の注意

ご使用の前に、この「使用上の注意をよくお読みのうえ、正しくお使いください。また、注意事項には危害や損害の大きさを明確にする為に誤った取扱をしないと、生じる事が想定される内容を「警告」・「注意」の2つに分けています。

ご使用上の注意



警告：警告を無視した取扱いをすると、使用者が死亡や重傷を負う原因となります。



注意：注意を無視した取扱いをすると、使用者が傷害や物的損害を被る可能性があります。

2

ご使用上の注意 つづき

注意

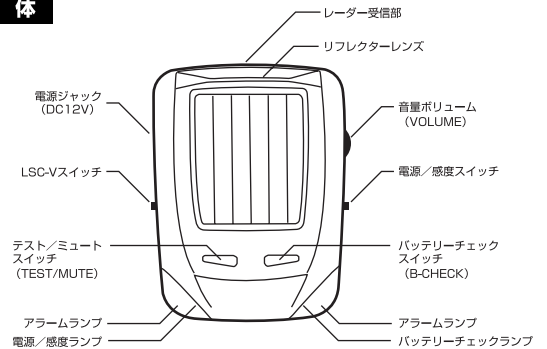
- 本製品にはお買い上げの日から1年間の保証がついています。（ただし、内蔵のカドニカ電池、吸盤等の消耗品は保証の対象になりません）
- 万一、製品本体にロット番号シールがない場合は、商品をご使用になる前に弊社へご連絡ください。
- 保証書には、必ず「販売店名」「お買い上げ日」が記入されているか、記載の内容をご確認いただき、大切に保管してください。
- 本製品は、レーダー式（Xバンド・Kバンド）の速度取締機と、カーロケーターシステム（407MHz帯）のみ有効で光電管式、ループコイル式・ワイヤー式等、他の方式による速度取締機には反応しません。
- 取締りレーダーと同一周波数のマイクロ波を使用した機器（下記）周辺で、レーダー受信機が受信することがありますが、これは誤作動ではありません。あらかじめご了承ください。（自動ドア・防犯センサー・車両通過計測器・気象用レーダー・航空用レーダー）
- 一部のナビゲーションシステム装着者において、ナビゲーションシステムからの漏れ電波により、レーダー受信機が誤作動する場合があります。
- 太陽電池の発電量は使用環境（気象条件・駐車中の日照状況等）の影響を受け易く、通常状態よりはやく電池が消耗する事があります。シガープラグからの併用充電を行ってください。
- 本製品を取付けての違法行為（スピード違反等）に関しては、弊社では一切の責任を負いかねます。
- 本製品の仕様及び外観は改良の為、予告なく変更する事があります。ご了承ください。

ご使用上の注意

4

各部の名称

本体

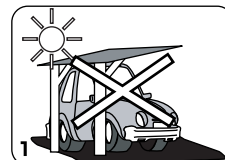


各部の名称

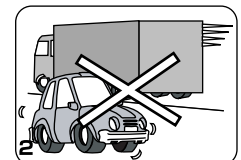
6

ご使用にあたって

本製品の回路設計にあたっては、通常の使用状況に於いて太陽電池の発電量と回路消費電力のバランスがとれるようになっておりますが、次の様な場合、発電量が不足しチャージサインが表示される事があります。もし、このような症状が現れた場合は、シガープラグコードを使用して内蔵電池の充電をしてください。充電時間は、7時間程度を目安にしてください。



1



2

ご使用にあたって

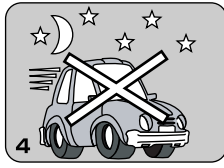
- 1・屋内駐車場・ガレージ等太陽光の直接当たらない場所へ長時間駐車される場合。
- 2・高速道路・交通量の多い道路わき・鉄道の線路わき等、絶えず振動を受けて動作状態になる場合。

8

下記1~4の様な条件下でご使用される場合は、シガープラグコードを接続した状態でのご使用をお薦め致します。



- 3・冬期の雪国や梅雨時等、曇りの日が続き日照時間が少なくなる場合。
4・夜間走行の頻度が多い場合。



ご使用にあたって

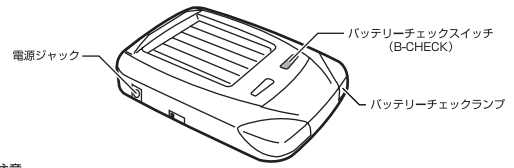
9

使用初期の充電

まず、最初に充電を行ってください。

出荷時には、検査用予備充電しかされておられません

長い間、本体を使用せず放置しておりますと内蔵電池が自然放電します。当社専用シガープラグコード（12V）を使用し、エンジンをかけて充電してください。バッテリーチェックスイッチ（P15）を押してバッテリーチェックランプが緑色になれば、充電完了です。（電源スイッチは、ON/OFFどちらでも充電できます。）



使用初期の充電

10

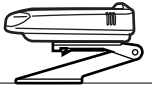
△注意

使用状況・使用環境にもよりますが、おおむね4~5年が目安となります。内蔵電池の寿命に満たない前に内蔵電池の容量が低下する事（メモリー効果）がありますが、その場合は一度完全放電させてから満充電にすると、性能がもどかる場合があります。また、内蔵電池はリサイクル可能なリチウムイオン電池ですので交換の際は弊社サービス部までご連絡ください。

レーダー受信機の取付方法

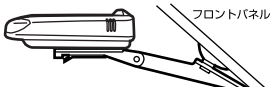
本機は2通りの車両側への取付け方法があります。

ダッシュボードへの取付け



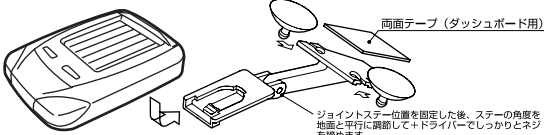
ダッシュボード上

フロントガラスへの取付け



フロントパネル

△警告 エアバックの飛び出し場所には取付けしないでください。まず、ジョイントステーを上図のようにダッシュボード又はフロントガラスどちらかの取付け場所を選び、付属品（吸盤・両面テープ/下図）をジョイントステーにとりつけます。車両に固定した後、ジョイントステーを地面と平行に調節してからドライバーでしっかりとネジを締めます。最後に本機を下図のように矢印方向からセットすれば取付け終了です。



両面テープ（ダッシュボード用）

ジョイントステー位置を固定した後、ステーの角度を地面と平行に調節してドライバーでしっかりとネジを締めます。

レーダー受信機の取付方法

11

各スイッチの設定方法

電源/感度スイッチの設定

本機は電源スイッチと受信感度スイッチを兼用しております。

- 1 本機の電源を入れます。電源/感度スイッチをHI又はLOWにあわせませす。受信感度は下表の走行条件に応じて選択してください。電源/感度ランプが点滅すれば正常です。



電源/感度スイッチ	OFF	LOW	HI
感度ランプ	つかない	赤色	緑色
走行条件	—	市街地	郊外・高速

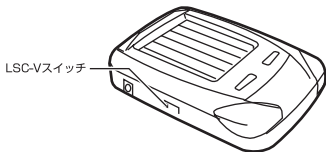
各スイッチの設定方法

12

LSC-Vスイッチの設定

LSC-Vスイッチとは、車の走行振動を利用して駐・停車時の不要な警告音を自動的にカットする為の振動調整用スイッチです。

- 1 エンジンをかけます。
- 2 本機の電源を入れます。
- 3 LSC-Vスイッチを電源/感度ランプの点滅が消えるところにあわせませす。（LSC-Vの振動感度は3…高 2…中 1…低としてあります。）走行時、30~40Km/h以上で電源/感度ランプが点滅していれば、調整完了です。



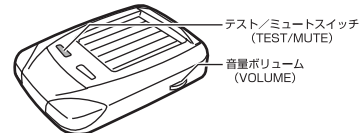
各スイッチの設定方法

13

各スイッチの設定方法

テスト機能・音量ボリュームの設定

- 1 本機の電源を入れます。
 - 2 本機に軽く振動を加えながら、テスト/ミュートスイッチを押します。
 - 3 アラームランプと警告音でテスト動作を行います。
- ※ テスト動作中に音量ボリュームにて警告音量を調整します。



各スイッチの設定方法

14

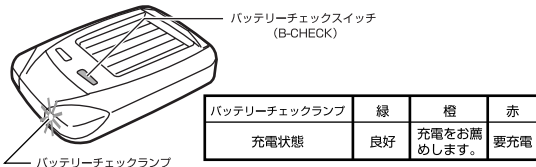
ミュート（消音）機能

レーダー発信原を確認し、警告音が鳴り続ける時にテスト/ミュートスイッチを押すとアラームランプ消灯、警告音をミュート（消音）します。ミュート（消音）はレーダー波が途切れるまで持続し、自動で待機状態に復帰します。ミュート中に再度テスト/ミュートスイッチを押してもミュート状態から復帰します。

バッテリーチェック機能について

内蔵電池の充電状態が表示ランプで確認できます。

- 1 本機の電源を入れた状態で、バッテリーチェックスイッチを押します。下記表のようにバッテリーチェックランプの色で充電状態を表示します。



バッテリーチェックランプ	緑	橙	赤
充電状態	良好	充電をお薦めします。	要充電

また、容量不足の場合、自動的にお知らせするチャージサイン機能を採用しています。（P18）

各スイッチの設定方法

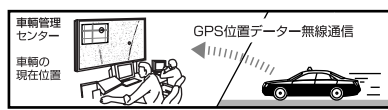
15

本機の受信方法

●カーロケーターシステムとは…

正式名称を「無線自動車動態表示システム」と言い、緊急車両に装備されたGPS受信機より算出した位置データを無線で定期的（間欠）に各本部の車輦管理センターへ送信するシステムです。本製品は緊急車両からの電波を受信し、警報を行い、緊急車両の走行を妨げないよう安全な回避を促します。

本機の受信方法



本製品は各本部へ送信している電波を受信し、警報を行い、緊急車両の走行を妨げないよう安全な回避を促します。

(注)
○一部地域または、一部緊急車両には、カーロケーターシステムが装備されていない為、本製品では受信できない事があります。
○カーロケーターシステムは電波が送信される為、実際の緊急車両の接近と受信タイミングにズレが生じる場合があります。
○緊急車両は走行状態（緊急走行、通常走行、駐車中）によって、電波の送信間隔が変化する為、実際の緊急車両の接近と受信タイミングにズレが生じる場合があります。
○緊急車両がエンジン停止時は電波の送信を行わない為、本製品での受信はできません。
○送信電波の中継局、受信本局付近では緊急車両の接近に関わらず受信する事があります。
○本製品が受信するカーロケーターシステムは、パトカー、覆面パトカーを中心に導入されており白バイ、救急車、消防自動車等には現在導入されておませんが、将来的には導入する可能性があります。

16

本機の受信方法

レーダー式取締り機 迄の距離 (電波の強さ)		本機の受信方法
アラームランプ (赤) アラーム音 ※アラーム音、アラームランプは同期して動作します		
アラーム音	LOW (赤) HI (緑)	
アラーム音が鳴らない	アラーム音が鳴る	
ステルス受信	アラーム音 : ピロピロピロ... (約3秒) アラームランプ: アラーム音と同期 (早い点滅)	
カーロケータシステム受信 (407MHz帯)	アラーム音 : ピコ...ピコ...ピコ... (約2秒) アラームランプ: アラーム音と同期 (遅い点滅)	

17

機能用語の説明

オートボリュームダウン

レーダー波を受信開始してから約15秒後に減音します。
※音量を下げてご使用している場合、オートボリュームダウン作動時は、減音により警告音が消える事があります。

チャージサイン

内蔵カドニカ電池が容量不足になると、アラームランプの点滅と警告音 (2拍子) が同期して充電不足をお知らせします。
チャージサインが表示した場合、付属のシガープラグを差し込んで、充電を行ってください。

チャージサインの表示方法

警告音	
アラームランプ	

18

レーダーまめ知識

このページは一般に知られている、いろいろな取締り機についての説明です。

レーダー式

ステルス型取締り

代表的な取締り機は三菱電機のRS-720DRですが、最近JRCも新型の取締り機をだしたと言う情報があります。実際の取締りでは、警察官がリモコンで装置をコントロールする為いろいろな電波の出し方ができます。計測精度をあげる為、一般的には電波を出したままにして、電子シャッターで電波が外に漏れないようにしますが、最近のレーダー受信機は感度が高くその状態でも100メートル手前から受信できてしまう為現在は、至近距離まで取締りの電波自体を素として、電波が出ない状態にする「狙い打ち」的方法が使われるようになりました。この方法ですと、レーダー受信機の反応は極端に遅れ70~100メートル地点でいきなり受信すると言うケースも想定されます。(この狙い打ちの方法の歴史は古く、ステルス型取締りが導入される随分以前から使われる手法でした。)

Hシステム

設置型取締り機は一種で車両測定用の電波が間欠で発信されています。従って従来のタイプのレーダー受信機では、著しく感度が下がります。このシステムはビデオカメラで違反車両のナンバー及び運転者を同時に撮影し専用回線を介して警察本部の大型コンピュータに送られます。受信距離は500メートル前後が一般的ですが電波の分布(間欠波の為)の関係で連続音はやや遅くなります。

パトカー車載式

パトカーの赤色灯部分を一部改良して取締り装置を載せたもので、主に高速道路等で、走行中に後方から取締る事が多いが、レーダー出力が強い為、500メートル以上からでも受信できます。

レーダーまめ知識

19

レーダーまめ知識

レーダー式以外 (注.レーダー探知機は反応しません。)

ループコイル式

設置型オービスの一種で、車両測定を道路下や中央分離帯等に埋め込まれた金属探知機によって車両が通過する際速度を測定する方式です。この取締りは電波をださない為本機は反応しません。設置型オービスの場合は事前に表示板がでている事が多いので、見落とさないよう注意が必要です。

LHシステム式

速度計測部がループコイル方式で、違反車両の写真撮影がHシステム方式の取締り機です。この取締りも電波をださない為本機は反応しませんが事前に表示板がでている事が多いので、見落とさないよう注意が必要です。

光電管式

昔のワイヤ式を進歩させた取締りで、道路と2点間に置かれたセンサーを車両が通過する際速度を測定します。この取締りも電波は使用しない為本機では反応しません。しばしば連絡に350.1MHzの警察無線を使用している様です。

Kバンドの取締りについて

Kバンド

現在国内において、Kバンドの取締りは行われていませんが、郵政省電気通信局が割り当てた速度測定用周波数に24.2GHz (Kバンド) があります。近い将来この周波数を用いた取締りが行われる可能性があります。本製品はKバンドも受信できる様設計されております。

20

故障かな?と思ったら

次のような場合は、故障でない事がありますので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

動作しない

- 本機のスイッチが「OFF」になっていませんか? → 12ページ参照
- 内蔵電池の残量がなくなっていますか? → 10ページ参照
- LSC-Vスイッチの感度設定が間違っていますか? → 13ページ参照

警告音が鳴らない

- 音量ボリュームを低く調整していませんか? → 14ページ参照

警告音が鳴りつづける

- 内蔵電池の残量がなくなっていますか? → 18ページ参照

故障かな?と思ったら

21

仕様

電源電圧	2.4V (大容量カドニカ電池)
電池容量	250mAh
充電入力電圧	D.C 12V
消費電流	待機時 1mA以下 (無振動時) 最大時 60mA以下
受信周波数	Xバンド (10.525GHz) Kバンド (24.200GHz) カーロケータシステム (407MHz帯)
受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン
検波方式	FMトラッキングタイムカウンタ方式
動作温度範囲	-10℃~+80℃ -5℃~+80℃ (充電時)
本体寸法	W64 × L86.5 × H16 / mm
重量	85g

22